

学校名 東郷学園義務教育学校 校長名 永田 真一

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価			学校関係者評価委員による評価(集約)				
			段階	人数	平均	段階	人数	平均	主な意見	
1	(1)	校長の学校経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	段階	人数	平均	・コロナ禍のため会合等で直接伝える機会が少なかったが、可能な限り情報を発信してきた。ブログの有効活用により、情報発信の強化を図っている。	段階	人数	平均	・学校だより等を通じて、地域・保護者に、改善していると感じる。これからも周知に努めてほしい。
			A	12	3.3		A	11	3.6	
			B	23			B	7		
			C	1			C	0		
			D				D	0		
2	(1)	望ましい子供の姿(知・徳・体)に向かって数値的目標を設定し努力している。	段階	人数	平均	・アクションプランにある数値目標達成に向けた実践に努めている。 ・7アクションについて、各学年で振り返りを行いながら、向上に向けた努力を重ねている。	段階	人数	平均	・目標に向かって努力している姿勢を感じる。令和4年度の重点項目については、保護者・地域へ周知し、達成に向けて努力してほしい。
			A	16	3.4		A	12	3.7	
			B	20			B	6		
			C				C	0		
			D				D	0		
3	(2)	子供たちは、楽しそうに生き生きと学校生活を送っている。	段階	人数	平均	・各学年で気になる事例がある。児童生徒が相互に尊重し合える学校づくりに向け、人権尊重を基盤にすえた取組を継続していく。また、授業の充実を図っていく。	段階	人数	平均	・一人一人の児童生徒の表情が明るい。日々の生活や諸行事において、児童生徒の笑顔・楽しそうな様子を見ることが出来る。
			A	18	3.5		A	16	3.9	
			B	18			B	2		
			C				C	0		
			D				D	0		
4	(2)	いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	段階	人数	平均	・毎週火曜日の職員朝会の時間に、生徒指導関連の報告会を継続している。職員全体で関わっていく体制を更に強化し、課題改善を図っていく。	段階	人数	平均	・教職員間で情報共有がなされている。状況により、保護者全体に周知し、全体で考える必要があるかもしれない。課題は、学校運営協議会にも示した方がよい。
			A	20	3.6		A	12	3.6	
			B	16			B	4		
			C				C	2		
			D				D	0		
5	(3)	子供たちの安全(登下校時、自然災害時)について細心の注意を払っている。	段階	人数	平均	・児童生徒に向けて、適宜、安全への呼びかけ・指導を継続している。 ・保護者・地域の方々の御協力に大変感謝している。	段階	人数	平均	・教職員や保護者・地域の方々の見守りにより、安全確保がなされている。一方で、自転車の乗り方・道路の渡り方等については、継続した指導が必要である。
			A	18	3.5		A	11	3.6	
			B	18			B	7		
			C				C	0		
			D				D	0		
6	(4)	教職員は、子供や保護者、地域との望ましい関係を築いている。	段階	人数	平均	・連絡帳・電話等を用いながら、保護者・地域との連携に努めている。気になる児童生徒の家庭には家庭訪問を行い、共通理解と連携を深めるよう努めている。	段階	人数	平均	・教職員は、児童生徒・保護者に対しよく声をかけ、望ましい関係づくりに努めている。地域とのつながりも更に構築できるよう努めてほしい。
			A	17	3.5		A	11	3.6	
			B	19			B	7		
			C				C	0		
			D				D	0		
7	(5)	学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	段階	人数	平均	・土壌は、僅かずつだが改善しているように思われる。 ・「全職員・全児童生徒で美しい学校を保つ」という意識を高めていく必要がある。	段階	人数	平均	・校内は整っている。道路に子どものマスクが落ちていたことがあった。花・緑が少なく感じるのは、敷地の広さが一因かもしれない。
			A	6	3.0		A	8	3.4	
			B	24			B	10		
			C	6			C	0		
			D				D	0		
8	(5)	学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検等がなされている。	段階	人数	平均	・定期的な点検を継続している。 ・清掃の充実が課題である。前述の通り、全職員・全児童生徒で取り組んでいく。	段階	人数	平均	・施設は充実している。安全点検が定期的になされ、維持・管理に注意が払われている。
			A	26	3.7		A	15	3.8	
			B	10			B	3		
			C				C	0		
			D				D	0		
9	(7)	子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	段階	人数	平均	・学級通信・学級PTA等、様々な機会を通じて情報提供に努めている。2学期のPTAでは、家庭学習とメディア利用について実態を示し、改善への協力をお願いした。	段階	人数	平均	・学校だより等でよく知らされている。より分かりやすい説明を工夫していくことで、更に周知できるのではないかとと思われる。
			A	8	3.2		A	6	3.3	
			B	26			B	11		
			C	2			C	1		
			D				D			
10	(7)	保護者や地域は学校の教育活動に対して協力・支援を行っている。	段階	人数	平均	・コロナ禍の中にも関わらず、様々な教育活動に御理解をいただき、例年同様に協力・支援をいただいている。たいへんありがたい。	段階	人数	平均	・保護者や地域と一体となった活動がなされている。更に、保護者・地域が関わり、児童生徒のために尽力していきたい。
			A	18	3.5		A	14	3.8	
			B	18			B	4		
			C				C	0		
			D				D	0		

学 校 名
東郷学園義務教育学校

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価(集約)			学校関係者評価委員による評価(集約)	主な意見			
			評定(数値平均)				評定(数値平均)			
11	(6)	小中一貫教育は、積極的に実践され、子供たちの姿として現れている。	段階	人数	平均	・「ふれあいタイム」を継続し、交流活動の充実を図っている。また、研修で、前・後期職員が連携した授業づくりを行い、研究授業を行った。更なる深化を目指す。	段階	人数	平均	・学校行事・休み時間の様子から、児童生徒のよい連携が伺える。コロナ禍ではあるが、地域交流活動も活発である。
			A	13	3.3		A	12		
			B	22			B	6		
			C	1			C	0		
			D				D	0		
12	(6)	薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えてくれている。	段階	人数	平均	・児童生徒が楽しみにしている活動となっている。講師にあこがれ、休み時間に活動する児童の様子があり、充実した活動になったと感じている。	段階	人数	平均	・元気塾に限らず、体験をおとした学習は、児童生徒を笑顔にしている。生き生きとした様子が感じられ、児童生徒の刺激になっている。
			A	18	3.5		A	13		
			B	17			B	5		
			C	1			C	0		
			D				D	0		
13	(6)	英語教育の推進について、小・中学校の特質を活かして充実が図られている。	段階	人数	平均	・毎週火曜日をイングリッシュデーとして、英語による放送・朝の会の司会等の取組を始めた。昨年度から導入した教科担任制は、現在、6年生で継続している。	段階	人数	平均	・施設一体型小中一貫校としてのメリットを生かした英語教育で、児童生徒に定着を図ってほしい。
			A	10	3.3		A	7		
			B	25			B	10		
			C	1			C	1		
			D				D	0		
14	(2)	子供たちは、学校や地域で進んであいさつをしている。	段階	人数	平均	・「語先後礼」を言葉に、あいさつの向上にむけた取組を進めている。もっと伸びると思われる。向上を目指し続けていく。	段階	人数	平均	・児童生徒によってあいさつに差がある。継続した指導により、習慣化を図っていく必要がある。
			A	2	2.9		A	7		
			B	27			B	10		
			C	7			C	1		
			D				D	0		
15	(8)	/	段階	人数	平均		段階	人数	平均	
			A		#DIV/0!		A			
			B				B			
			C				C			
			D				D			

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校教職員の評価を平均(小数第1位まで)

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校関係者評価委員の評価を平均(小数第1位まで)

＜学校関係者評価結果及び委員の意見等をふまえた次年度の改善点と対応策＞

○児童生徒の学力・体力等の向上に向けて、各アクションプランの目標数値達成を目指した具体策を設定し、実践を重ねていく。あわせて、令和4年度の重点(あいさつ、聞き方、時間厳守)については、学校だより・学級通信を通じて周知し、徹底を図っていく。

○いじめや不登校等の課題については、必要に応じて学校運営協議会でも熟議して改善策を検討し、実践していく。

○登下校時の安全指導については、児童生徒への指導を継続するとともに、青パト隊やPTAとの連携、職員による状況確認を行いながら、交通事故0の取組を進めていく。

○地域との連携強化に向けて、教育課程に位置付けている地域との交流活動・東郷もりあげ隊の活動を通して、多くの職員が関わる体制作りを進めていく。

○学力や体力の実態についての周知に向けて、県や全国と比較したグラフを作成し、学校だよりで公表していく。

○あいさつの向上は、長期間に渡る課題である。「あいさつ日本一」をキャッチコピーに、「語先後礼」の指導を継続していく。